

厳しい変革で明日の農業を

チッソ旭肥料株式会社

代表取締役副社長 竹 田 博



新年明けましておめでとうございます。

平成20年の年頭に当たり、「農業と科学」をご愛読頂いております皆様に一言ご挨拶を申し上げます。

去年は当社にとって非常に大きな変化のあった年であります。従来のチッソ旭肥料(株)は親会社であるチッソ(株)と旭化成ケミカルズ(株)が生産した肥料を販売する会社でありました。平成19年1月1日より両親会社の持つ肥料事業を分割し、チッソ旭肥料(株)に吸収し、製造・販売・研究を一体化した会社として、新しく出発することになりました。世の中のニーズの変化にいち早く対応できる体制で、お客様のご要望に応じていく決意であります。今後とも従来にまして宜しく願い申し上げます。

日本を含めて世界の経済は、原油の異常な高騰にもかかわらず、好調な状態でありました。その中で肥料用の原料資材(アンモニア、リン鉱石、カリ等)が、原油の異常な高騰と同様な従来にならぬ大幅な値上げになりました。世界的な天然資源の独占化傾向はますます強くなり、今後原料資材の価格が下がることを期待することは出来ないかと思われま

す。そうした中で国内の農業は、寒暖の変化が例年に比して異なっており、かなりの季節ずれを感じましたが、農業生産全体としては概ね順調であったと思われま

す。は生産資材の上昇、販売価格の据え置き状態で決して良い環境ではありません。

世界的に農業を見てみると、世界的な食料の増産、化石燃料からバイオエネルギーへの代替化傾向等々、拡大生産への非常に大きな変化が起こりつつあります。国内の農業もその大きな流れの中で、食料自給率の向上、バイオエネルギー用の作物増産増収の動きが大きくなっていくものと思われま

す。この流れの中で、肥料に対し従来以上に重要な機能—吸収効率の高い、流亡の少ない、環境に優しい等—が求められるものと思われま

す。当社の溶出を精緻にコントロールしたコーティング肥料「LPコート®」「ロング®」は上述の重要な機能を有しております。このコーティング肥料の機能に磨きをかけて行きたいと考えていま

す。当社は、この他にも肥効調節型緩効性窒素肥料「ハイパーCDU®」、緩効性窒素肥料「CDU®」、打ち込み型根圏肥料「グリーンパイル®」、硝酸系高度化成肥料「燐硝安加里®」、高性能育苗培土「与作®」等々、機能性を重視した肥料・農業資材をご用意させて頂いております。今後とも全社一丸となって皆様のご期待に沿うよう努力をしております。宜しくご指導ご鞭撻をお願いいたします。本誌「農業と科学」も合わせて充実をさせていただきますので、皆様方の一層のご協力を併せてお願い申し上げます。